

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 80

今月のテーマ デジタル社会と家計の関わり

“デジタル社会”、またまたお得意のこじつけの始まりか!?!とわれそうだが、家計にもその影響は少ない。デジタル社会の到来により、ライフスタイルそのものが変化し、それに伴って家計支出にも大きな変化が起きていることは明らかだ。

何度も言っているが、受ける影響のメリット・デメリットは共存している。飛躍的に進歩したデジタル社会の恩恵の中でメリットを最大限に活かすには、弊害もあることを理解し、正しい使い方を心がけなければならない。家計への影響が大きいデジタルと言ってもなかなかピンと来ないだろうから、ここであえて挙げてみよう。

まずは情報通信の分野で見ると、パソコン・タブレット端末・携帯電話・ファクシミリ・液晶テレビ・地デジ・BSテレビ・CSテレビ・CD・DVD・電子書籍（新聞・雑誌）・電子辞書、などなどなどなど…！ついこの間まであったダイヤル式の固定電話なんかは、見たことも使い方も知らない世代が登場し、今や昔話の世界だ。遊びの世界がデジタル化し、ゲーム機や携帯のアプリにとって代わり、余暇そのものが変わってしまったのだ…!?

金融商品・金融サービスでさえそうだ、財布の中身はいつの間にか現金が消え、カードのオンパレード、支払は現金から電子マネーへ…？キャッシュカード・クレジットカードを始め、スイカ（果物ではない）や、エディ（外国人の名前ではない）や、ワオン（犬の鳴き声ではない）や、ナナコ（松嶋じゃない）などなど、皆さんはどれだけ知っていますか？お店のポイントカードなどはまだ良い、墓参りが自宅出来るようになっていし、離れている恋人とデートまで出来てしまうし、もはやここまで来ると訳が分からないと思われるご同輩は多い筈だ。

さてさて、家計と繋がるこれらのデジタル化は、それぞれにメリットがあって登場したものであることを先ずは理解しなければならない。墓参りにしても例外ではない。距離的な問題や身体上の問題で行けないなど、社会のニーズがある訳だから、嘆いてばかりもいられない。

ここまで、様々なデジタル化を紹介したが、利便性の高い物、経済効果の高い物、リスクの高い物、コストのかかる物などがある。それぞれの特徴や仕組みを理解し、デジタル社会とどう関わっていくかを考えてみよう。



生活の変化

デジタル社会の進行は、私たちの生活のリズム・サイクルにも影響を与えている。いつでも視聴できる音楽やテレビ番組、場所を選ばずスマートフォンに情報を得られる*モバイル機器は、就寝時間を遅くし、睡眠時間を短くし、さらには余暇時間を少なくしているという。しかし、時間の代償として得られるものが有益であれば納得だが、どっぴりどっぴりかかり過ぎてモバイル機器に支配されるのは困りものだ。コントロールするのは常に人でなければならぬ。

また、もたらされる情報はすべてが有益な物とも限らないので、情報を選び分け、判断する賢さも求められる。しかし、年少者にあつてはその判断能力が充分ではないし、子供たちを守るためにも、親や社会はしっかりと監視やサポートをしなければいけない。

*モバイルとは：移動性・携帯性・機動性などがあることを意味し、小型・軽量化、高性能化された情報通信機器やコンピュータなどの情報端末。

高コスト社会

デジタル社会がもたらした、スピード・確実性・快適性・利益は少なくないが、一方でその利用におけるコストも増大した。機器の購入費用はもとより、サービスを受け続けるランニングコストの方がはるかに大きい。インターネット利用の回線使用料、プロバイダ料金、携帯・スマホのチケット通信料などなどだ。一頃の固定電話の通信料と比較すると、その大きさは容易に分かるだろう。



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”

- ◆ 保険の見直しを検討している
- ◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
- ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
- ◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社
total life support 募集代理店 **トータルライフサポート**

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

- 営業時間 / 9:30~19:00
- 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

● 紳士服のコナカ
● エネオス
● すずきクリニック
● 当店
● マクドナルド
● かんきょう
● 洋服の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

仮に家族全員の通信関係費用が20000円だとすると、年間24万円、10年で240万円、30年では720万円だ。これほどの金額が預貯金から消えるとなると将来設計に影響を及ぼすのは必須だ。さらに、いまさら携帯・スマホやインターネットの利用を止めるわけにはいかないし、家計支出のコスト削減の努力は避けて通れない。

所得が伸び悩む中で、目立って増えてきた通信料の負担は大きい。その利用の仕方や契約プランの見直しなどのコスト削減と併せて、家計支出の全体を改めてチェックする必要があるだろう。

●カード化する金融商品サービス

近年、高額な商品を分割で購入する際に、ローンの契約書に記入するケースが激減したと思いませんか？ クレジットカード、カードローン、キャッシング、リボ払いなどの登場で、手続き自体が簡素化され、スピードも速くなった。カード社会は確かに便利で利用しやすくなったが、言い方を変えれば借りやすくなった。金融が発展する以前、高額商品の購入は、貯めてから買うか、お店との信用で分割払いをするしかなかったのだが…。

借りやすくなったことによる手軽さは、イコール返しやすくなった訳ではない。むしろ、手軽さゆえに管理されないまま使い続けると、多重債務にさえなりかねない危うさもはらんでいるから注意が必要だ。要するに手軽さゆえに、しっかりとした管理・制御が必要なのである。

●リボ払いの盲点

様々な金融商品がデジタル化する中であって、多くの方が当たり前のようになっているリボ払い…！これは一体、何者か？ 某金融機関の説明によると『ご利用の件数や金額にかかわらず、毎月のお支払いが一定となる便利なお支払い方法で、無理なく計画的にご利用になれます。』とあった。便利な返済方法との説明はあるが、「有利な返済方法」とはどこにも書いていない。その正体を知らないまま便利さだけで利用を続けることは、本当に問題はないのか？ 一般的な分割払いの返済と、どう違うのかを見てみよう。

●一般的な分割払いは…
商品を購入することに何回払いにするかを指定

して、手数料を加えた金額がその月の支払額となる。同じ月にいくつもの商品を購入した場合は、支払額はその分上乘せされ、月々の支払いが重たくなるが、半面、それ以上の買い物を抑えられる効果がある。また、それぞれの支払いが終わる時期も明確だ。金利は諸条件で異なるが数パーセントくらいからと比較的低い。手間は少しかかっても低金利で借りられる。

●リボ払いは…

あらかじめ指定した一定額を毎月支払い、その中から利息を差し引いた金額を元金に充当させていくというものになる。(元利定額リボルビング方式)借入れ当初は元金が多いので、支払った金額の中で占める利息の割合が大きくなる。最初は利息をたくさん払い、元金は後回しということになる。また、購入した商品ごとに支払額が決まっているわけではないので、個別の商品にいくら支払ったか、“自分の支払いがいつ終了するのか”を把握するのが難しくなってくる。ましてや、複数のカードで複数の商品購入やキャッシングが重なると、いよいよ訳が分からなくなり、多重債務に陥りかねない。

使うからには、便利さの裏にあるリスクを知り、節度を持って利用してほしいものだ。

●見えないリスク

デジタル化によってもたらされたカード社会は、実に便利だ。財布の中に多額の現金を持ち歩かなくても良くなったし、利用状況はネットで容易に確認できるため管理がしやすいとも言える。利用状況は毎月郵送で送られてくるし、サイト上でも確認できる。一見分かり易く、管理し易く見えるが、どちらにしても見ようとしなければ見えない。ましてや、カード会社が複数社になると訳が分からなくなり、見ること・知ること・を避けてしまうようになると、もはや危険信号だ。“貯めてから買う”から、“買ってから払う”が繰り返されると、収入の多くが返済に回ってしまいい、使うお金が足りなくなると、さらにカードローン・キャッシングに走ってしまうという悪循環だ。毎月の給料は、使えるお金から返済の財源に成り代わってしまいい、勤労意欲さえ奪いかねない。

こんなことになるリスクを考えると、昔ながら

の袋分け(この袋は、①食費・②光熱費・③交際費など)がやけに理にかなっているように思えてしまうのは私だけだろうか…？

●便利さの陰に

デジタルだけではない。科学の進歩に伴う技術革新は、便利さだけでなく、安全やスピードをもたらした。化学の進歩は医療の水準や食料の安定供給にも寄与している。なんと有難いことか…！しかし、改めて考えてみよう。

進歩に伴うコストダウンの反面で、コストアップも招いていることを。スピードアップを招いている一方で、別の時間が使われていることを。

便利さの反面で、人間本来の思考力や体力にも影響が出ていることを。

これらの便利さを享受するには、それなりの管理と対策が出来て初めて恩恵が得られるのかもしれないなあ…。

●家計の健康維持

高度に成長したデジタル社会は、そのシステムやプログラムについての専門的な知識を必要とし、個人で対応するには至難の技となってしまう。かつて自動車の調整・修理はある程度出来たものだし、電化製品などは動かなくなると叩けば直ったりしたのだが、今となっては昔話だ。家計の点検や見直しにも同じようなことが言えるのかもしれない。

高度化する経済・社会を背景に、1987年、日本で初めてファイナンシャルプランナー(FP)に関する協会(JAFP)が設立された。その後、国家資格「ファイナンシャルプランニング技能士」が導入され現在に至っている。手前味噌のようではあるが、家計の健康診断や見直しには、専門的な知識や情報活用が不可欠である。決して叩いても直らない。専門家としての「ファイナンシャルプランナー」の利用が、もともとと身近になって欲しいと願う今日この頃だ。

来月号は、これまでのデジタル社会とも関連するが、様々な金融商品の利用と注意点を考えてみよう。